

西中学校区 保幼小中連携通信

グローイングアッププラン 1年目 [点を深めるブロック連携]

第1号 平成29年6月14日 発行責任者 上垣内 匡志／加藤 淳
(西中学校区連携コーディネーター)

～西中校区合同研修会の振り返り～

6月6日に合同研修会がありました。今回は、道德講演会として京都産業大学の柴原弘志先生を講師にお招きして、ご講演いただきました。テーマは「『特別の教科 道德』における授業づくりと評価」～主体的・対話的で深い学びの実現～。柴原先生のアツく、わかりやすく、そして時にはおもしろさも交えたお話は、1時間半の時間があっという間に過ぎてしまいました。

講演の中で、「道德授業づくりのポイント」のお話がありました。キーワードは、「か・き・く・け・こ」。『か＝感動、葛藤』『き＝共感（的理解）』『く＝食い込み』『け＝経験』『こ＝交流』。有意義な道德授業を創造するためには、この5つのポイントを授業の中に取り入れることが大切であるとお話がありました。また、「多面的・多角的」という言葉も多く聞かれました。道德の授業を実践する中で、深い学びを実現するために様々な事象を「多面的・多角的」に見ること、そのような視点を持つこと、それが子どもたちの主体的・対話的な学びにつながっていく、という大切なことも教えていただきました。

今回の講演で道德授業について前向きに向き合えるきっかけを多くの先生方が持つことができたのではないのでしょうか。ぜひ、ひとつでも先生方のこれからの実践に活かしていただけましたら幸いです。本当にたくさんのご参加ありがとうございました。

アンケートより

・よく聞く「多面的に考える」という言葉ですが、具体的にお話いただいととてもわかりやすかったです。考える意義を実感できる授業にもつながりますが、これからの授業、発問に生かしていきたいです。

・多面的に考えることの大切さを学ばせていただきました。特に命についての話は興味深かったです。映像の資料なども効果的であると知り、自分の道德の時間に活用していきたいと思いました。

・「子どもに聴く」（観察と言語分析）個人内の成長を認めていく。小中連携のもと多面的に多角的に捉えていくこと（立場を変えて考えさせていく）ことが大事。

・どう評価すれば良いか不安だったが、個人の良さをほめることが最重要と再確認できた。

・自分事として考えさせることができる、考えたくなる、考えざるを得ない、考える意義を実感させる、授業ができれば子どもたちに伝えることができるのだと思った。

・小学校でも中学校でも同じ教材が扱われることを知って、小中連携の重要性を感じました。できるなら同じ教材で小中高でどんな風に授業（中心発問）が変わるのか評価などを紹介していたけるとどういうところに着目して授業をつくればいいのか知れるのではないかと思います。

西中校区外国語担当者会から・・・

4月に行われたグローイングアップ連絡会を受けて、6月7日（水）これからの西中校区外国語活動のあり方を交流、検討する担当者会をしました。そこで話し合われた内容は以下の通りです。

○各校訪問について

訪問日：木曜は1日、他日は火曜を除く午後。

→1学期は授業研の都合上、春日小重視で訪問を考えるが、訪問希望は西中に連絡する。（もしくは担当者会で予定確認をする。）



外国語担当者会の様子

○本年度の西中校区外国語連携計画

1学期は春日小、2学期は郡小が西中校区外国語活動の合同授業研をします。それに伴い、本年度の連携計画を予定しました。

（1学期）

・西中外国語連携担当による各小学校訪問（顔合わせ）

（2学期）

・T・T、JETとして授業補助等、各小学校の授業に補助的な参加を予定。原則、各学校による外国語授業計画に合わせてサポートしていく。

（3学期）

・小学校の先生が主として授業に取り組めるよう、指導案検討にも関わっていく。

⇒3小学校の高学年を中心に訪問するので、本年度は各校で訪問してほしい日程を調整すること。次年度以降、小学校間で進度（学習する単元）を揃えていく予定。

○その他

小中学校の先生で外国語活動の交流を行い、以下のような話が出ました。

・「必ず週1」外国語活動を行うことが、西中校区外国語の第一歩。先生方がやりやすい形からやってみてほしい。

・小学校でヘボン式ローマ字の書く練習をしていると中学校の英語につながる。・3・4年生は、ローマ字や情報（PC）の学習から英語につなげたい。

・モジュールの中で、アルファベットを書けるような取り組みがあるといい。

・チャンツ：キーセンテンスやキーワードをリズムに合わせて覚える。

アクティビティ：ゲームなどから学習を深められるようにする。



郡小学校4年生の外国語活動訪問